

新入生の皆さんへ

入学、おめでとうございます。入学式が開けないこと、本当に申し訳なく思っています。新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行状況下、クラスター感染の可能性を減らす苦渋の選択なので、赦していただければと思います。

毎日、コロナに関するニュースが溢れ、得体のしれない恐怖を感じつつも、つい「自分たちには関係ない」「自分は元気だから大丈夫」と考えてしまう自分がいますよね。身近に感染者が出ないとなかなか当事者感がもてないというのが正直な気持ちかもしれません。しかし、日々、それぞれ、思う以上に様々な人と接していませんか。その人たちが、自分自身も含め、症状の出ていない感染者であるかもしれませんよね。世界の主要都市の状況を見れば、思う以上に、コロナはうつる。周りの人たちにうつさない、逆に、うつされないと自信をもって言えるかという、難しいですよ。大学という空間には多様で濃密な接触機会があります。コロナから守る対象は自分だけじゃない。身の回りには思う以上に健康に不安を抱えている人は少なくありません。授業で関わる人たちの中にも、罹ったら重篤化しかねない身体の人と思う以上にいます。他者への慮りが試されているとも言えますよね。

専門家が設定した感染を避ける消毒や手洗い、マスク、「3密」を避けるなど、「面倒くさい」とついつい思ってしまいますよね。しかし、それらはデータを基にして、今言える、感染をできるだけ避ける最低のルール。それ以上にできることは確かにありますが、自分たちでなんとかできる、そして絶対にやるべき最低ライン。守らないというのは、害を与えるのと同義じゃないでしょうか。

コロナは社会を試している。自分を守るとともに、他人も守るために、それぞれ何ができるか。社会という言葉で考えると、責任が曖昧になりやすいので、まずは自分の近親者や身近な人たちを自分たちでしっかり守りませんか。コロナに向き合う今、自分でしっかり考えて、しっかり動くしかない。自分をしっかり守り、周りの人たちもしっかり守る。社会的責任をリアルに感じさせる今回のコロナ禍を、自分、そして社会への関わり方を学ぶ機会と考えてみませんか。

「自粛」という言葉は社会とともに、自分自身が試されている言葉だと思えます。「強制されないから守らない」で済ませることもできなくはないですが、自分たちがちょっと我慢するだけで誰かを危険にさらす可能性が減らせる。行動が制約されることでできた時間を有意義にする工夫はそれぞれ考えれば、いろいろ可能なはずですよ。

大学は、社会的責任を果たし、自律して考動できる自分にする場だと考えています。今回のコロナ禍は間違いなく、リアルな学び・成長の機会。誰かが用意してくれるじゃなく、自分で必要な物は自分で調達する。自分そして自分たちを律する考動を意識し、他人に気を配れる人になる。それを試されている特別な世代として、ぜひ充実した大学生活をこれから過ごしていただけると有り難いです。

令和2年4月4日
文学部長 水元豊文